

ながさき平和の日

長崎は今年、被爆80年目の夏を迎えました。今年も各学級から2名の平和推進委員を選出し、次の取組を行ってきました。

〈全学級〉

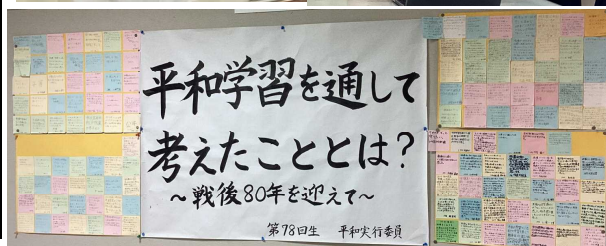
- ・平和への意識を高めるための道徳（6月27日）
- ・平和に関するDVD視聴（7月2日）
- ・高校生平和大使(校轅)による講演（7月15日）

〈平和推進委員〉

- ・平和宣言文の起草
- ・平和集会の準備、リハーサル
- ・第44回原爆殉難教え子と教師の慰霊式への参列（8月1日）

〈生徒会企画部〉

- ・平和祈念式典への参列（8月9日）



今日の平和集会は、暑さを回避するためオンラインで行いました。平和推進委員長 小島居慶さん（3-1）のあいさつに続いて、平和推進委員が下平作江さん（当時10歳）の「被爆者の訴え」の朗読を行った後、絵本「わたしの『やめて』」を読み聞かせました。次に、各学年を代表して、1年2組の高島健さん、2年3組の塚本実花さん、3年1組の首藤杏さんが平和学習を経て考えたことを発表しました。最後に、平和宣言文を全校生徒で高らかに読み上げた後、平和式典の中継に合わせて黙祷を捧げ、平和推進副委員長 波多野奈那さん（3-4）の挨拶で集会を締めくくりました。

今日の集会を通して、戦争の悲惨さを再認識する中で、自他の生命を尊重し、恒久平和を願う思いを一層強くしたことでしょう。被爆者の平均年齢は87歳を超えます。私たちは長崎に生きる者として、被爆の実相について更に学びを深め、この事実を次代へと継承する責任があります。

【各学年代表のことは（要旨）】

1年 高島 健さん



今もウクライナ侵攻やアフガニスタン紛争など、多くの戦争が起きています。今回の平和学習を通して、戦争をなくし、平和な世界をつくるためには、何をすればよいかと考えました。

まずは、身近な争いをなくすことです。そして、戦争の恐ろしさや平和の大切さを伝えることです。さらに、差別をなくすことも大切です。

被爆当時、悲惨な状況下でも、長崎の人々は助け合って、生きることをあきらめませんでした。

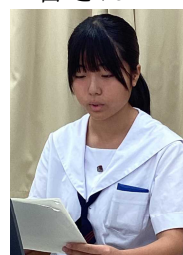
2年 塚本 実花さん



戦時中、人間魚雷「回天」という恐ろしい兵器が存在したことを知りました。魚雷に人間が乗り込み、敵艦に体当たり攻撃をする特攻兵器です。脱出装置はなく、一度発進すると、生きて還ることはできません。

元特攻隊員の一人は、「平和は空気ではない。みんなの努力でつくるもの。」と語りました。今ある当たり前の日常は、多くの犠牲とたゆまぬ努力の上に成り立っているのだと、気づかされました。

3年 首藤 杏さん



以前暮らしていた宮崎県では、平和について、自分事として考えたことはありませんでした。

長崎で「長崎を最後の被爆地に」ということばと出会い、原爆や戦争の悲惨さについて深く考えるようになりました。その中で、対話の重要性に気づきました。

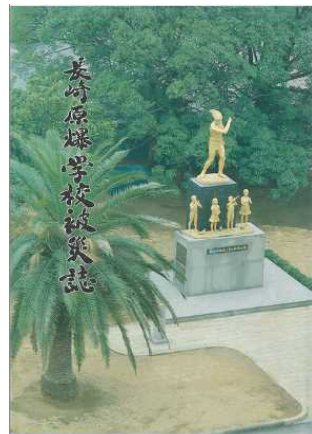
意見の違いを尊重し合うことが平和的解決につながると信じています。県外にも意見を発信し、長崎に住む者としての使命を果たしていきたいです。

第44回原爆殉難教え子と教師の慰霊式

長崎市平野町にある長崎市平和会館前の広場に、「原爆殉難教え子と教師の像」が建っています。この像は、原子爆弾の投下によって即死、又は放射能により次々と尊い命が奪われた国民学校児童生徒5,317名、教職員212名（殉難者奉安数）の御霊を慰め、再びこのような惨禍を繰り返さないことを誓い、今から40年ほど前の昭和57年に県下の教職員関係団体が一丸となって建立したものです。同年8月3日に第1回慰霊式を行って以来、毎年慰霊式が行われています。

ことは8月1日に挙行され、爆心地周辺の小・中・高等学校26校の児童生徒、教職員など約420名が参列しました。本校からも、平和集会実行委員の皆さんが参列し、献花を行いました。

このたび、原爆殉難教え子と教師の像維持委員会委員長から、「像」建立に合わせて昭和59年3月に発行された記念誌「長崎原爆 学校被災誌」の（再度の）贈呈がありました。発行から約40年経過していますが、原爆による学校被災の状況等を学べる貴重な資料です。掲載内容から一部抜粋して紹介します。



【長崎師範学校】（現在の文教町附属小学校校地）

長崎師範学校は、本科と予科があり、全寮制度で厳しい軍隊調の中で生活していた。工場、学校へも寄宿舎から通っていた。

昭和18年ごろから軍需工場などへの動員が断続的に行われており、昭和20年8月9日の時点では、在籍者737人のうち、学校や工場等にいた生徒は、兵役や休学中の者を除き、約400名であった。教職員は、在籍者約80名だったが、兵役・雇・用務員を除き、約50名が残っていた。

原爆による被害は、学生の死者は54名であるが、終戦後、在学中または卒業後に死亡した77名の中には明らかに原爆症によると思われるものが多い。

死亡者の半数以上は寄宿舎にいたものであり、次いで運動場で軍事教練を受けていた予科1年生である。動員先では純心高等女学校裏手に防空壕を掘っていた本科1年生の12名が大きな犠牲者である。

教職員では、教官には負傷者はいたが死者はなく、用務員2名が死亡した。

建物は本館・講堂が大破し、一部は焼失。木造校舎、寄宿舎は全壊・全焼した。

【西浦上国民学校】（現在の文教町附属中学校校地）

西浦上小学校沿革誌によると、明治5年の学制頒布を受けて、昭和11年4月に新築され、12年4月から長崎県師範学校の代用附属小学校となり、13年長崎市に編入、16年西浦上国民学校と改称された。

校舎は、木造二階建てでコの字型、運動場は師範学校と共用していた。

昭和20年8月9日は授業日になっていたが、午前7時50分空襲警報が発令されたため、登校しかけた児童は途中から引き返し、8時30分空襲警報は解除になったが、児童は登校せず、職員のみが勤務していた。

本校では、職員は校長室に集合し、校長の指示を受け、仕事にかかって間もなく、11時2分、原子爆弾が炸裂した。ものすごい爆風で、一度木造二階建ての校舎全体が浮き上がり、落ちると同時に、柱を切り倒して屋根をその場に置いたような状態でつぶれ、ちょうど餅を踏みつけたようにぺしゃんこに全壊した。倒壊した校舎や校庭は木材やガラス・瓦礫が山積みとなり、足の踏み場もない惨たんたる情景だった。

II 原爆炸裂の時点 1 校庭の惨状

予科1年1組は教練の時間でクラス40数名が整列していたが、全員熱風で地面にたたきつけられた。この時のことを川口勇は次のように書いている。

「雲の上でB29の爆音がきこえる。空高くゆうゆうと… その爆音についての質問が級長にとぶ。

『B29』の答え…記憶はここでとぎれる。この瞬間に……どのくらいの時間が経過したのであろうか。記憶がよみがえったのは、『自分は死んでいる』という夢のような感じから…。（中略）『いや、自分は生きている』ことに気がつく。爆弾でやられた。一時も早く逃げなければと顔をあげる。（無意識の中に両手で耳を押さえ、うつぶせの姿勢で校庭に倒れていた）顔をあげたとたん、黄色い煙がたちこめて、校舎も見えない。その瞬間、「毒ガス」と直感した。このままでは大変なことになる。

また、校庭の草の中に顔をいやというほど押しこんだ。また死が近まりつつあることを感じる。このまま苦しみが、死にたえるこわさが全身を通りぬける。助かる方法など頭に浮かんでくるわけではない。ただ死を待つのみ。…時間の経過は記憶にない。2回目に顔を

をあげる。煙がとれて校舎がぼんやり見える。さあ、逃げるのは今だ。夢中になって校庭を駆け出す。背中がものすごくあつい。

うしろをふりむくと、上衣から煙がでてい。火がついて燃えている。素早く脱ぎすてる。上衣は背中中央の縫い目が細長く残っているだけで、背中部分は全部焼けてなくなっている。燃える上衣をつけたまま倒れていたわけである。その苦しみはたとえようがない。もだえることもできず、顔を草につきこんだまま…。

校舎の横に防火用水の水槽がある。青みがかかった水がいっぱい。そのまま用水槽にとびこみ全身をぬらす。無我夢中である。苦しみをやわらげるにはこれより方法がない。とび出す。痛みがやわらぐわけではない。痛みはますますきびしくなる。

40数名のクラスの生徒の姿は、2、3人しか見あたらない。それぞれ逃げおおせたであろうか。木造の二階建ての寄宿舎は、マッチ箱を押しつぶしたように、ペチャンコになっている。通る道はない。」

（「長崎の証言」第八集）

おめでとう

夏休み中もたくさんの受賞がありました。
受賞した日時順に紹介します。

第92回NHK全国学校音楽コンクール長崎県大会（7月23日 諫早文化会館）銀賞
坂口夏菜 福地龍雅 池田楓花 浦馬場ちひろ 益富 秋 赤澤想花 澤勢はな
谷井里帆 塚本実花 増村心晴 北崎秋奈 御所優菜 堂尾莉愛 扇 琉莉 林田栞奈

第75回「社会を明るくする運動」中学・高校生弁論大会
長崎地区大会（7月24日ブリックホール）最優秀賞・長崎地区推進委員会委員長賞（第1位）
長崎県大会（8月2日ブリックホール）優秀賞・NHK放送局賞（第2位）
筒井美羽（3-3） 論題「無責任という名の共犯」

第47回全日本中学生水の作文コンクール
長崎県審査 最優秀賞 中央審査 優秀賞・全日本中学校長会会長賞
小嶺 彩（1-1） 作文「生かし生かされる」

長崎県吹奏楽コンクール県南地区大会（7月26日 諫早文化会館）金賞
長崎県吹奏楽コンクール県大会（8月3日 ブリックホール）最優秀賞 九州大会に出場
馬場千夏 宮田萌百 山口結衣 黒濱菜々子 松下 華 今村羽那 小野颯太
東山こち 松崎萌衣 森田梨愛 下山真琴 田口 栞 田中彩希 田平佳穂
中村心太郎 森田歩純 石原里桜 伊藤 怜 清水琴美 辻 春翔 吉田 碧
坂本智哉 中村紫帆 浜田栞名 浦川想介 尾崎彩仁 尾上莉緒 菰方有希
佐伯奈々 永富心菜 前田 零 森奈々弥 上戸穂乃香 嶋津紗笑 中原柚葵
西村宥香 馬場心菜 飯谷心咲 本田さくら 梶原和夏 田中莉緒菜
緑川麻亜玲 内田栞衣佳 辻 英愛 中嶋志歩 宮崎玲名 森本鞍之介
赤瀬 祥 後田莉菜 黒板希遥 齊藤仁子 鈴山実優 仲山富英

ソフトテニス長崎市中学AB選手権大会（8月3日 かきどまり庭球場）
女子Bの部 第3位 東 香凜・濱地優菜 ペア

【長崎県中学校総合体育大会】☆は九州大会出場

水泳競技（7月19日 長崎市民総合プール）
男子 400m個人メドレー 第3位 平野穂太郎

軟式野球部（7月26～28日 佐世保市総合グラウンド野球場） 第3位
川村航平 早木 蒼 尾方聡人 重富太珂 村野天聖 塚本豪光
村田亮太郎 馬場泰宥 松本修次郎 江島杏哉 中村環杜 加藤 拓
角悠太郎 松尾遥仁 長松憲伸 大野雄獅 香月楓太 平 大翔

女子硬式テニス部（7月26・27日 佐世保市総合グラウンド庭球場）
〈団体〉優勝
竹内乙華 荒井瑞希 吉野友理 林 まお 松尾美佳 稲津陽向 楊井実和
吉見真汎 沼嶋愛華音 水崎櫻子 ☆

〈個人ダブルス〉優勝
竹内乙華・稲津陽向ペア ☆

陸上競技部（7月26・27日 トランスコスモススタジアム長崎）

〈男子〉 共通110mH	第2位	福田 悟	☆			
共通走幅跳	第3位	目野雅也				
共通三段跳	第3位	鎌田隼太郎				
共通砲丸投	第2位	永田晟椰	☆			
2年100m	第2位	堀内隆宏	☆			
低学年100mH	第1位	堀内隆宏	☆	第2位	江口 芯	☆
2年4×100mR	第1位	安藤央貴	堀内隆宏	武藤圭佑	濱本健心	
低学年4×100mR	第1位	武藤圭佑	江口 芯	坂元彰真	堀内隆宏	☆
総 合	第1位					
〈女子〉 共通100mH	第1位	上田菜緒	☆			
共通走高跳	第1位	上田菜緒	☆			
共通走幅跳	第2位	重松 杏	☆			
共通砲丸投	第2位	香月愛美	☆			
2年100m	第3位	苑田栞央				
2年4×100mR	第1位	溝川莉乃	苑田栞央	野口 凜	松尾侑莉	
共通4×100mR	第2位	溝川莉乃	苑田栞央	重松 杏	上田菜緒	☆
総 合	第2位					